

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

JANUARY 2017

January						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

ふこうず

◆ 深溝断層

所在地：額田郡幸田町大字深溝字小井文字

交通：JR 東海道本線「三ヶ根」駅 西 約 2km

内陸の活断層型地震が発生すると、地表面に断層の活動跡が露出する場合があります。この断層の活動跡は地震の記録として貴重な遺構で、各地で保存されています。

有名な事例のひとつは、濃尾地震により地表に現れた根尾谷断層です。根尾谷断層は、明治 24 (1891) 年に発生した濃尾地震の際に、総延長約 80km、活動 1 回あたりの最大横ずれ変位 8m、最大上下変位 6m に及ぶ大規模な断層活動を起こし、結果、数十 km に渡って地表に地震断層が現れました。岐阜県本巣市の地震断層観察館・記念館では、この根尾谷断層が保存展示されており、いまでも断層の活動の痕跡を見ることができます。



根尾谷断層 (本巣市観光サイトより)

平成 7 (1995) 年に発生した阪神淡路大震災の際には、六甲山から淡路島に至る六甲・淡路島断層帯の一部である野島断層が、淡路島付近で地表に露出しました。野島断層は、淡路島の北西部・旧北淡町の北端、江崎灯台付近から南西方向に延びる約 10km の断層で、地震の際には、断層の南東側が南西方向に 1m ～ 2m 程度の横ずれを起こし、同時に南東側が約 50cm ～ 1.2m 隆起したとされています。この活動により、変位を起こした断層面が地表に露出しました。野島断層



野島断層 (ウィキペディアより)

も淡路島にある野島断層保存館でその一部が保存されており、断層による様々な地形の変化の紹介や、断層の断面が見られるトレンチ展示が行われています。

平成 28 (2016) 年 4 月に発生した熊本地震は、益城町木山付近から葦北郡芦北町を経て、八代海南部に至る臼杵断層帯の活動 (14 日)、南阿蘇村から益城町木山付近を経て、宇土半島の先端に至る布田川断層帯の活動 (16 日) による地震とされており、益城町などでは、前述の事例同様、断層が地表に露出した様子が見られます。



熊本地震による断層 (NHK ニュースより)

この地域では、昭和 20 (1945) 年 1 月 13 日に発生した三河地震の際に地表に露出した深溝断層が有名です。深溝断層は、三河湾の中央から北に向かい、途中、西に湾曲しながら幸田町内へ至る延長約 20km の断層です。三河地震の際には南西部で隆起が、北東部で沈降が確認され、最大落差は 1.5m、最大左ずれ変位量は 1m 程度であったとされています。この深溝断層の痕跡も幸田町により保存されており、現地では変位量が 2 本の杭で示されています。



深溝断層

いままなお当時の様子を残して保存されている断層の遺構は、どれも地震の凄まじさを直接的に想起させるものであり、何時訪れても、その恐ろしさを感じずにはいられません。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い (二度と被害を繰り返さないように、など) が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

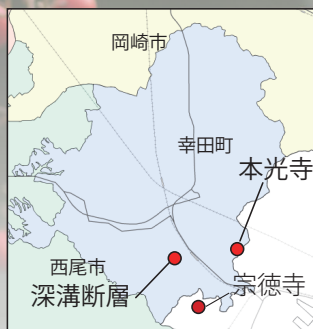
◆ 深溝断層の周辺には…

● 本光寺

所在地：額田郡幸田町大字深溝字内山

交通：JR 東海道本線「三ヶ根」駅 北東 約 500m

本光寺は、深溝松平家の祈願所・菩提所として大永 3（1523）年に建立され今日に至っています。過去の地震被害の記録が残されているほか、昭和 20（1945）年三河地震等により土塀が崩壊しています。



● 宗徳寺（三河地震による地割れ）

所在地：蒲郡市一色町

交通：JR 東海道本線「三ヶ根」駅 南 約 2km

三河地震の際に、深溝断層に沿ってできた地割れです。蒲郡市の天然記念物に指定されています。天然記念物指定時には延長 41m でした。隆起のため 1.5m 持ちあがってしまった番神堂は改修の上、現存しています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ こうた凧揚げまつり

幸田町の新春恒例イベントこうた凧揚げまつりは、全国からさまざまな凧が集合し、10 畳を超える大凧から小凧まで、約 180 基が幸田の空を彩るイベントです。毎年 1 月の第 2 日曜日に幸田町菱池地内で開催されます。（平成 29 年の開催は 1 月 8 日）



大凧、中凧、小凧、全国の凧の部にわかれた凧揚げ競技（競技では、絵柄・造りと揚がり方により採点がなされ、審査が行われます。）のほか、和太鼓の実演などのステージイベントや各種の屋台も出展されます。中凧・小凧の部は当日申し込みも可能です。

また、凧揚げまつり当日、会場内及びその周辺で撮影した凧揚げに関する写真による写真コンテストも行われています。

1 月のあいちの花

平成 29 年 1 月のあいちの花は、アルストロメリアです。（平成 27 年 1 月に引き続き、再びの登場です。）

アルストロメリアは花色が豊富で、花束やフラワーアレンジメントに多く利用されます。色目は鮮やかなものからパステル調、シックなものまで多彩です。

6 枚の花弁のうち、外側の 3 枚は大きく丸みがあり、内側の 3 枚のうち 2 枚に縞模様があるのが特徴です。葉は付け根の部分でねじれており、裏側が上を向いています。

アルストロメリアの名前は、スウェーデン人の植物学者アルストロメルに由来しています。



● ブレイクタイム ●

♪ 幸田のいちご

農産物の豊かな幸田町ですが、冬の特産のひとつがいちごです。

幸田町では昭和 16 年から栽培が始まっており、昭和 59 年には全国に先駆けて夜冷育苗（夏にハウスなどで低温管理し開花時期を早め、11 月頃に収穫する育苗法）を導入し早期出荷を図るなどの取組が行われています。

品種は「とちおとめ」が主流で、90% 以上を占めていますが、愛知県が開発した新品種「ゆめのか」の栽培にも取り組まれています。出荷時期は 10 月中旬～ 5 月頃で、JA あいち三河の『幸田憩の農園』などで手に入ります。



幸田のいちご
あいちの都市・農村交流ガイド HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 29 年 1 月）